

学生受講結果アンケートまとめ

2021 年度

名古屋学芸大学 F D 推進委員会

はじめに

名古屋学芸大学では2007年度より教育の質を向上させることを目的として学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これはFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこのアンケートを通じて学生の授業の受け止め方（意識）を把握し、授業改善に役立てています。

2014年度からは「学生受講結果アンケート」へ様式を変更、また2018年度からは従来のマークシート用紙利用からWEB利用へ回答方式を変更して実施してきました。さらに昨年度からは、新型コロナウイルス感染予防のため、従来の対面型に加えリアルタイム型、オンデマンド型、対面とのハイブリッド型等の様々な形による遠隔授業も導入されてきました。そこで遠隔授業に関する設問を追加し、次の実施要項のとおり実施しています。

なお、集計結果は各授業担当者に返却し、それぞれが授業改善に役立てるとともに、大学全体の集計結果をこの大学ウェブサイトに公表させていただきます。

実施要項

2021年6月28日

名古屋学芸大学授業担当者 各位

名古屋学芸大学FD推進委員会
委員長 堀尾 正典

2021年度前期「学生受講結果アンケート」の実施について

平素より本学の教育活動にご協力賜りお礼申し上げます。

さて今年度もWebを用いて全科目で「学生受講結果アンケート」を行います。本学では、授業全体の振り返りにより、学生の達成状況への自己分析、今後の学びについての意欲を促すような、学びの場として実施しています。そのため、全員が行うよう、授業内で学生が入力する時間を設けてその場で回答するようご指導ください。詳細は下記を確認の上、実施をお願いいたします。

なお、このアンケートは学生への授業・教育改善を目的とし、大学が義務づけられているFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として、また第三者評価の根拠資料として重要な意味を持ちます。こうした事情をご理解・ご協力をお願いいたします。

記

1. 実施日程

2021年7月7日（水）～2021年8月5日（木）（授業第13週～成績提出締

切日）

上記期間内の授業で、学生に各自ポータルサイトから回答入力させてください。

2. アンケート対象とする授業

原則として、全ての授業（およびその授業担当の専任教員及び非常勤講師）を対象に実施します。

但し、以下の授業は対象から除きます。

- ① 一部の集中講義等、上記の期間中に開講しない授業
- ② 今学期に成績評価しない（次学期以降に開講期をまたぐ）授業

なお、アンケートは授業番号（例：1A01）単位で回収、集計します。そのため、同一授業番号の授業を複数の教員で担当する場合（オムニバス、二人以上の教員が同時に授業に入り複数で担当、クラスやグループ分けして各教員が個別で担当）は、お手数ですが、代表教員（採点担当者）にて、アンケートを実施する教員・授業回を調整の上、各教員へご指示ください。

3. アンケートの狙いと活用方法

（1）このアンケートの狙い

よい授業とは何でしょうか？よい学びには、学生がその授業目的を正しく理解し、受講後その内容を理解・修得できた結果として、必ずある種の達成感が生まれるはず（正しい目的に対する達成感です）。さらに、その得た達成感は心理的報酬となり、もっと学びを深めたいと言った次の学修行動への動機付けにつながっていくでしょう。つまり良い学修とは、学生の学力だけでなく今後の学びへの意欲を高められるものであるのです。我々は、この学修意欲の喚起（学生をその気にさせること）を授業目的の大きな一つと考えるべきではないでしょうか。

したがって、学生受講結果アンケートでは、学生が、学びの結果何が良く理解でき、どこが理解できなかったのか、今後何を深めていきたいか、などの授業の振り返りを行い、それを通じて全体の達成感や今後への学修意欲を回答することになります。結果から学生意識の変化を把握して下さい。

（2）アンケート項目の意味

授業目的そのものの適切さはカリキュラムマップ作成時やシラバスチェックなどで、学科全体で検討・調整されるべき問題です。学修成績が達成されたかどうかは、試験などの評価物や授業内での学生応答（質問やミニットペーパーなど）を通じて教員が図るべきものになります。このため、受講後に問う必要がある学生の学修意識調査の項目としては、

- i 学生が授業の目的を理解・納得していたか？
- ii 受講後この目的を達成できたと実感できているか？
- iii 今後より深く学びたいと考えているか？

の3点で、これらを中心に「1.学習目的の理解と達成状況について」の設問が作られています。

（3）結果活用方法

アンケートでは、悪かった部分だけでなく、良かった部分も自由記述で書かせる欄があります。教員はこれらから自分の授業の強みを把握し、長所をより伸ばせるような授業改善につなげて下さい。

もし回答結果が予測したようなもので無かった場合、「2.授業の運営について」の設問から原因を推測できるなっています。ただ、設問項目だけでは原因を推定することが困難な場合も考えられます。その場合は教員独自設問で質問を追加するなどして各自補ってください。

今回のアンケート結果が良くなかったとしても、それが直ちに問題になることはありません。新しい試みで授業を行った場合などは結果が芳しくない場合の方が多いはず。結果は、例えば3年程度の経年変化を見て判断してください。3年たっても状況が芳しくないまま全く改

善出来ないような場合は、学科の長やFD推進委員に相談するなどFD活動に結びつけてください。

学生はアンケートを通じ、「ここの部分の学びは良かった」あるいは「私は、受講した結果この部分がまだよく理解できていない」と言っています。これに対して教員が工夫した結果は、翌年の学生肯定評価率（上記2.の各設問で、そう思うと答えた学生の割合）の向上という形で示されてきます。結果を積極的に活用し、今後の授業改善に向けてモチベーションを高めていただければ幸いです。

（４）遠隔授業に関して

昨年度から遠隔授業についての設問を設けました。ここでは「今回の授業の成否について」、「今後の授業作りのため遠隔のメリット・デメリットについて」の2点について、判断方法の例を示します。

①今回の授業についての成否

質問の内容	受講結果アンケートによる判断
リモートによる学習効果は（従来の対面授業と比較してアップ？ダウン？）	アンケートの設問項目1から求められる肯定評価率を例年と比較して推定してください。
遠隔学修による内容（質や量）の適切性について	内容については、設問⑦授業教材（教科書、題材、テーマなど）、設問⑧評価を用いてある程度推定できます。 量については、設問⑨の文言「開始と終了時間」の適切性を、この授業の「学習時間」の適切性に変更しています。
学生の意識（学びやすかったかどうか、積極的に取り組めたか？）について	設問⑥「積極的に参加できる学習環境であったと思う」、「設問③授業時間外学修の実施」を例年と比較して推定してください。

②今後の新しい授業作りのため遠隔授業のメリット、デメリットの明確化

設問項目3自由記述欄（この授業の良かった部分、改善部分）とある程度重なりますが、特に授業内容そのものではなく遠隔学修の手法としてのメリット・デメリットの判断には、「設問項目4. 遠隔学修についての設問」を活用ください。

4. 実施方法について

（１）効果的な振り返りの実施

授業内で時間を設け、学生が各自の学修の振り返りを行い、その場でポータルサイト（Web）を利用し回答を入力するようご指示ください。なお、ここで言う振り返りとは、授業の単なるまとめだけではなく、

- ・知識や考え方など、その授業内での学修ポイントを振り返りさせて、思い出しから定着を図る。
 - ・自分自身の学修で、何がだめでどこが良かったかなどを具体的に整理させる。
 - ・それらから、さらに学びを深めるために自分は何ができるのか、すべきかを考えさせる。
- など、次の学びに通ずるような自己改善に繋がるものを想定しています。

（２）手順と説明例

学生への説明等のおおよその手順として、4 ページに、《Webによる学生受講結果アンケート手順と説明例》を示します。適宜活用ください。説明及び回答（入力）時間は全部で

20～30分程度を想定しています。

なお、学生へは事前に、回答方法等を記載した案内「学生受講結果アンケート提出について」をポータルサイトへ掲示し周知しています。(添付資料 No.1 (学生への案内) 参照)

また、教員独自の設問を任意に設定することができます。その場合は、板書、Moodle、ポータル、メール等により、各自で学生に周知してください。(添付資料 No.2 (設問) 設問⑬～⑰参照)

(3) その他

- ・アンケート様式は、授業方法（講義、演習、実験・実習）にかかわらず同一です。
- ・昨年度より、遠隔授業についての設問を設けています。(添付資料 No.2 (設問) 設問⑬～⑰参照)

5. アンケート結果の集計と取り扱いについて

アンケートの集計は、外部機関（業者）に委託し次の2通り行います。

(1) 各教員の授業ごとの集計（集計結果表、自由記述結果表）

10月中旬にメールボックス等において、各授業担当教員（複数教員で担当の授業は代表教員）へ返却予定です。教育実践記録集（ティーチング・ポートフォリオ）として、シラバス、「教員振り返り」等とともにお手元にファイル、保管いただき、授業改善の資料としてご活用ください。

(2) 授業方法全体および各授業方法別での、大学、学部、学科、教養、教職単位の集計

(1) とともにFD推進委員会の管理下に置き、調査結果の掌握及び分析等、大学としての組織的な授業改善へ活用します（教務課にて保管）。あわせて学科長等へ提供し、各教員の現状・課題の把握、助言等に具体的に活用します。

6. アンケート集計後のフィードバックについて

集計結果を返却後、各授業担当者にポータルサイトから「授業運営の教員振り返り」にて授業改善計画を提出いただき、それを学生にフィードバックいたします。提出方法等詳細は、集計結果返却時にあらためてご案内いたします（10月中旬を予定）。

また、大学全体の結果をFD推進委員会にてまとめ、大学ウェブサイト等へ公表します。

以上

<この件に関するお問い合わせ先>

教務課（FD推進委員会事務局）（内線 2 2 2 5）

外線 0561-75-2795、Eメール：ed-nuas_gr@nuas.ac.jp

《学生受講結果アンケート手順と説明例》

以下、説明例です。***の部分は、実施時に各授業に応じて変更してください。
また、遠隔授業（特にオンデマンド型）の場合は、適宜加工の上ご活用ください。

①アンケートの意味の伝達

これから学生受講結果アンケートを行います。このアンケートは、皆さんがこの科目を受講して何を学んだか、何を学べなかったのか、これからどこをより深めていきたいか、など各自が今後よりよい学びにつなげるために振り返りを行うことが大きな目的になります。

当然、誰がどのように回答したかを担当が知ることはありませんし内容によって成績が変化することはありません。皆さんの今後のよりよい学修と授業改善の為だけに利用されるものです。（可能であれば、実際に皆さんの意見を基に**を改善しました、等具体例を挙げて説明する。）

②この授業の狙い（学科ディプロマポリシーと関連して）

まず、この授業の狙いは何であったかを振り返ります。この授業は、学科全体の学位授与方針（ディプロマポリシー）の中の***（例 知識理解）の育成が目的でした。そのために、はじめに***を学び、***について考えました。（など授業内容を概説する）。皆さん、どこがよく学べて、どこがあまり学べなかったですか？興味をもち、より深く学びたいと思える部分はありますか？各自考えてみてください。

③スマートフォン（タブレット、パソコン）等の準備

では、自分のスマートフォン（タブレット、パソコン）を出してください。アンケートは各自のポータルサイトから入力しますので、準備ができた人から自分のポータルサイトを開いてログインしてください。

（参考）

・PC(<http://portal.nuas.ac.jp>)

・スマホ、タブレットなど (<http://portal.nuas.ac.jp/s>) QRコード



④学生入力

ポータル画面メニューにある「アンケート回答」→「学生受講結果アンケート」→「授業評価一覧」と進み、この授業***（科目名）を選択したら設問を良く読んで回答を初めてください。自由記述欄もあります。ここもできるだけ書き込んでください。なお操作方法は、ポータル掲示にある「学生受講結果アンケート提出について」にも記載されています。

ネットにつながりにくく入力できない人は、少し間を置いて再入力してみてください。

⑤入力完了後の指示

入力できた学生は***（終了、解散など）してください。

以上

アンケート設問

(2021年度前期) 学生受講結果アンケート

このアンケートはみなさんの学びの振り返りと授業を充実させるためのものです。結果は教育・授業改善のみを目的に使用し、成績には一切関係しませんので、率直にお答えください。
なお、回答の際は、各授業の担当教員からの指示に従ってご回答下さい。

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思うものを選択してください。

1. 学習目的の理解と達成状況について

①私は、この授業の学習目的（シラバスに記載された到達目標など）について、よく理解・納得している。 (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

②私は、この授業の内容についてよく理解できた／演習によく取り組むことができた (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

・特によく理解（取り組み）できた部分について、入力してください。(全角100文字以内)

・特に理解（取り組み）できなかった部分について、入力してください。(全角100文字以内)

③私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

④（今の考えとして）私は①の学習目的は達成できたと感じている (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

⑤私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

2. 授業の運営について

⑥自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

⑦授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は自分にとって適切なものであったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

⑧成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

⑨この授業の学習時間は適切であったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う 4: わりとそう思う 3: どちらかといえばそう思う
 2: どちらかといえばそう思わない 1: あまりそう思わない 0: 全くそう思わない

3. 自由記述

最後にこの授業についてあなたの考えを記述してください。

⑩この授業で特に良いと思った部分（全角100文字以内）

⑪この授業で改善した方が良いと思った部分（全角100文字以内）
（皆さんの意見で次の学期からの授業がより良いものになります。）

⑫その他自分が気づいた部分（全角100文字以内）

例）学びから自分が気づいたこと、特に理解（取り組み）できなかった部分への対策、この学びの今後への活用など、なんでも自由に記述してください。

4. 遠隔学修についての設問

今学期の授業で遠隔学修が含まれていた人はお答えください。

⑬今学期の遠隔学修部分で「良かった」と思えた事はなんですか？（全角100文字以内）

⑭今学期の遠隔学修部分で「改善した方が望ましい」と思える事はなんですか？（全角100文字以内）

5. 担当教員独自設問

※授業担当者からの指示があった場合、回答してください。

⑮

- 5 : 大変そう思う 4 : わりとそう思う 3 : どちらかといえばそう思う
 2 : どちらかといえばそう思わない 1 : あまりそう思わない 0 : 全くそう思わない

⑯

- 5 : 大変そう思う 4 : わりとそう思う 3 : どちらかといえばそう思う
 2 : どちらかといえばそう思わない 1 : あまりそう思わない 0 : 全くそう思わない

⑰

- 5 : 大変そう思う 4 : わりとそう思う 3 : どちらかといえばそう思う
 2 : どちらかといえばそう思わない 1 : あまりそう思わない 0 : 全くそう思わない

設問は以上です。

選択・入力が終わりましたら、右下の「回答」ボタンをクリックしてください。

※スマートフォンからの回答の場合、ボタンはページ最上部に表示されている場合があります。

ご協力ありがとうございました。

回答

本年度 FD 活動を振り返って

1. はじめに

本学における授業改善の P（立案）D（実行）C（評価）A（改善）では、

- ・ P（シラバス作成による計画の立案）
- ・ D（各回の授業実施）
- ・ C（受講結果アンケートによる評価）
- ・ A（教員振り返りによる次回改善策の立案）

の役割が与えられている。このレポートでは全体の授業改善活動を振り返り、来年度以降必要となる FD 活動について考える（全体の FD 活動における A に相当）。

特に、今年も新型コロナウイルス感染症対策のため、対面、遠隔（リアルタイム、オンデマンド、ハイフレックス）と言った様々な形態の授業を混在し運用してきた。学生教員ともにこの新環境に概ね順応してきているようにも見受けられるが、アンケート結果や教員振り返りから、その成果や問題点を分析する必要がある。

2. 実施方法、実施状況について

アンケートの実施方法は、例年同様以下の条件で実行された。

- ・ 原則全クラスを対象
- ・ ポータルサイトからの Web 入力で回答
- ・ 13 回目から 15 回目の授業内でアナウンス。

授業ベースでの参加割合は昨年同様 100%であり、実施そのものでも大きな問題は発生していない。ただ大きな問題点として学生回答率の低下が進んでいることが明らかになってきた。ここに過去 3 年間の回答率推移を示す。

<表 1 過去 3 年間に於ける受講結果アンケート学生の回答率>

	2021 年度	2020 年度	2019 年度
実質回答率	75.2%	80.2%	82.1%

この表で示されるように昨年比-5%となっている。考えられる原因として、

- ・ オンデマンド形式など授業内で一斉に全員で実施ということが出来ない科目が増えた。
 - ・ 学生も多くのアンケートに追われ、回答疲れから実施をすっかり忘れがちになっている。
- と言ったことが推測される。

3. 教員振り返りの実施方法と実施状況について

教員は、前年後期と今年前期を 1 年のまとめりとして自分の授業運営について振り返りを記入している。また方式は昨年同様、

- ・従来通り、特定の1科目を担当が選び振り返りを記入
- ・複数科目もしくは全体状況について振り返りを記入

のどちらかを教員が選択するものである。参加率は表2の通りであった。

<表2 過去3年における授業運営の振り返り記述者割合>

2021年度		2020年度		2019年度	
提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
246	94%	238	96%	233	96%

参加、不参加の教員の顔ぶれも固定されてきており数そのものにも大きな変化はない。当初に比べてこの作業の意味が浸透してきており、改善そのものに後ろ向き、自分の改善ではなく学校や組織、学生に対する不平不満を記述、と言ったような本行為の主旨について理解が不十分な教員は減少してきている（実際、再考を依頼した教員は0名）。逆に自主的に複数科目への記述を試みた教員が、2科目19名、3科目10名と増加傾向にあり、記述内容も改善に前向きなものが増えている。本作業の重要性について認知度が向上してきていることは喜ばしい結果と言える。

4. 肯定評価率から見た分析

本学では授業成功の指標として肯定評価率を導入している。それは、

- ・学習目的をよく理解している、の設問で5（大変そう思う）もしくは4（そう思う）に印を付けた学生でかつ
- ・この学習目的を達成した実感がある、の設問で5か4を付けた学生でかつ
- ・今後この学修を深めたいと考えている、の設問で5か4を付けた学生

の、全体における存在割合である。

過去3年の肯定評価率の変化を表3に示す。なお、強肯定とは各設問で5を付けた学生、すなわち強く成功を実感している学生の存在率を示している。

<表3 過去3年を比較した全体肯定評価率の変化>

	2021年度	2020年度	2019年度
強い肯定評価率	20.5%	15.1%	16.5%
肯定評価率	62.3%	56.9%	56.0%

昨年からみて肯定評価率、強い肯定評価率とも5.4%と大幅な増加を示した。一見喜ばしい結果のようだが注意も必要である。それは学生全体のアンケート参加率が5%低下している点である。もともと回答していない学生は母数として含まれていない。回答をすっかり忘れる程度の授業満足度であった学生ならば、それらの者が授業後に強い肯定感を示すことは考えにくい。もし、未回答のものが全員肯定感を示さなかったと仮定すると肯定評価率は46%

程度まで低下してしまう。ただ前年と比較すると、未回答者数が 1.07 倍となっているため、増えた 0.07 倍を分母に加味して考え、 $62.3\%/1.07=58.2\%$ 、すなわち $1.3\%(=58.2\%-56.9\%)$ 程度は前年比で向上したと判断しても良いのではないだろうか。実際、コロナ禍以前でも本学の肯定評価率は毎年数%ずつ度向上してきており、大きく外れた値では無いように推測される。表 4 では講義種類別の変化を示す。

<表 4 過去 3 年間における講義種類別の肯定評価率変化>

() 内が強い肯定評価率

	2021 年度	2020 年度	2019 年度
講義	58.1% (17.8%)	52.4% (13.0%)	52.1% (14.7%)
演習	66.7% (23.4%)	62.2% (17.5%)	60.6% (18.5%)
実験・実習	69.4% (24.7%)	64.1% (18.9%)	61.2% (18.8%)

講義系科目は演習系科目に比較して学生の積極的な参画がより難しいため、一般に授業評価は上げにくい。だが今年の講義系科目は増加率 5.7%と演習実習系科目以上の増加率を示しており健闘が目立つ。昨年以降からの遠隔対応が功を奏してきたことに加え、多様な学びの形態（いつでも何度でも学修できるという）がプラスに作用したようだ。ただし遠隔（特にオンデマンド）形式では、

- ・強い学習意欲が無い学生にとっては、学びの姿勢を継続させていくことが難しい。
- ・教員の適切な指導も届きにくい。
- ・他学生の学修動向や学生同士の互助作用が働きにくい。

と言った特徴があるため、成績下位層の学生の脱落を生じやすい。この問題は、これからも多様な学びの形態が並存していくことが考えられるため今後の課題となってくる（6 今後の課題参照）。

その他の、「大変そう思う」の比較を表 5、表 6 に示す。

<表 5 3 年間における授業内容の「大変そう思う」の変化>

	2021 年度	2020 年度	2019 年度
参加できる学習環境であったか	39.3%	30.6%	37.1%
教材の適切性	40.4%	32.9%	36.7%
成績評価物の適切性	37.9%	31.6%	33.9%
学習時間の適切性	40.4%	35.6%	47.4%

<表 6 3年間における時間外学習への積極的参加割合の変化>

時間外の勉強に 5 積極的に参加 ← → 0 全く参加していない

	5	4	3	2	1	0
2019 年度	27.5%	35.1%	25.8%	7.9%	2.5%	1.0%
2020 年度	29.3%	39.8%	24.0%	5.1%	1.4%	0.4%
2021 年度	33.2%	36.9%	22.4%	5.1%	1.7%	0.6%

昨年は学習環境、教材の適切性で大きな低下が見られていたが、今年は大きく改善している。これらの結果からも、やはり当初の実感通り、教員学生共に遠隔授業への対応がなされてきたことが分かる。

6. 今後の課題

現状考えられる緊急性の高い課題は 2 つあると考える。一つ目は、多様な学習環境下における学生の学習意欲向上である。昨年の本学データを見ると、遠隔授業では成績が上位・下位で差が付きやすかった。他大学の評価でもほぼ同様の結果が得られている。これは先述した通り、やる気もあって学ぶ目的や手段を自分で見つけることができる学生（いわゆる成績上位となる何割かの学生）は、自由な学習環境で何度でも繰り返し学ぶことができ、不足する部分はネット環境からいつでも補ってくることもでき教育成果を自らどんどん高めることができる。一方それらが出来ない学生は、学生間での互助作用（周囲の学生からの発言や、ふと見渡した友人のノートや学修姿勢などからの気付きなど）、教員からのアドバイスが得られにくい環境下で、ますます取り残されていってしまう。できる者はよりできるように、できない者はよりできなくなっていってしまうのが、遠隔を中心とした今の学習環境ではないか。このような状況では、教員はどうやって学生と関わって行けば良いのだろうか。個々の学生をよく観察し、学生のレディネス（学修へ向き合う状態）を見極め、本人のやる気を引き出すことができる適切な言葉掛けがより大切になる。これは教育の本質そのものと言っても良い永続的な課題でもあるが、FD 活動を通じてこのような対応へのノウハウが共有できるような研修や学習会などが望まれる。

二つは学生の受講後アンケートの回答率向上である。これは単純に値の向上だけを目指してはならない。学生にとってより良い振り返りを伴った回答率の向上が重要である。その時自分が何を考えていたのか、その結果どうなっていったのかを振り返る行為は、自分自身を客観的、俯瞰的に捉える力を育てることになる。さらにこれらの力は、次に同様の事態を迎えた時により良い解決へ導くことが出来る改善力にも繋がる。このような思考習慣は、将来の学生にとって重要になる、思考判断力である。全学的に良い振り返りができるような方法（設問、投げかけ、活動など）を見つけ、各授業へ浸透、その上で回答率向上に繋げることが重要である。

以上

集計結果

- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（大学全体）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）

2021年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (大学全体)

名古屋学芸大学

集計区分	大学全体
------	------

回答者数	22,786
------	--------

No	設問文	回答数と回答率(%)											有効回答		平均点			肯定回答率			
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		学部	学科	全体	学部	学科	全体		
1	1 学習目的の理解	7,478	32.8%	10,573	46.4%	4,159	18.3%	420	1.8%	117	0.5%	39	0.2%	22,786	0	-	-	4.09	-	-	79.2%
	2 授業内容の理解	7,949	34.9%	9,928	43.6%	4,171	18.3%	518	2.3%	177	0.8%	43	0.2%	22,786	0	-	-	4.09	-	-	78.5%
	3 授業時間外学習	7,574	33.2%	8,419	36.9%	5,097	22.4%	1,169	5.1%	382	1.7%	145	0.6%	22,786	0	-	-	3.93	-	-	70.2%
	4 学習目的の達成度	6,193	27.2%	10,207	44.8%	5,432	23.8%	738	3.2%	162	0.7%	54	0.2%	22,786	0	-	-	3.94	-	-	72.0%
	5 学習をさらに深めたいか	9,673	42.5%	7,787	34.2%	4,345	19.1%	663	2.9%	234	1.0%	84	0.4%	22,786	0	-	-	4.13	-	-	76.6%
2	6 参加できる学習環境であったか	8,965	39.3%	8,426	37.0%	4,248	18.6%	796	3.5%	252	1.1%	99	0.4%	22,786	0	-	-	4.09	-	-	76.3%
	7 教材の適切性	9,196	40.4%	8,667	38.0%	4,042	17.7%	595	2.6%	208	0.9%	78	0.3%	22,786	0	-	-	4.13	-	-	78.4%
	8 成績評価物の適切性	8,630	37.9%	8,901	39.1%	4,288	18.8%	648	2.8%	214	0.9%	105	0.5%	22,786	0	-	-	4.09	-	-	76.9%
	9 学習時間の適切性	9,204	40.4%	8,743	38.4%	3,932	17.3%	614	2.7%	212	0.9%	81	0.4%	22,786	0	-	-	4.14	-	-	78.8%
5	15 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

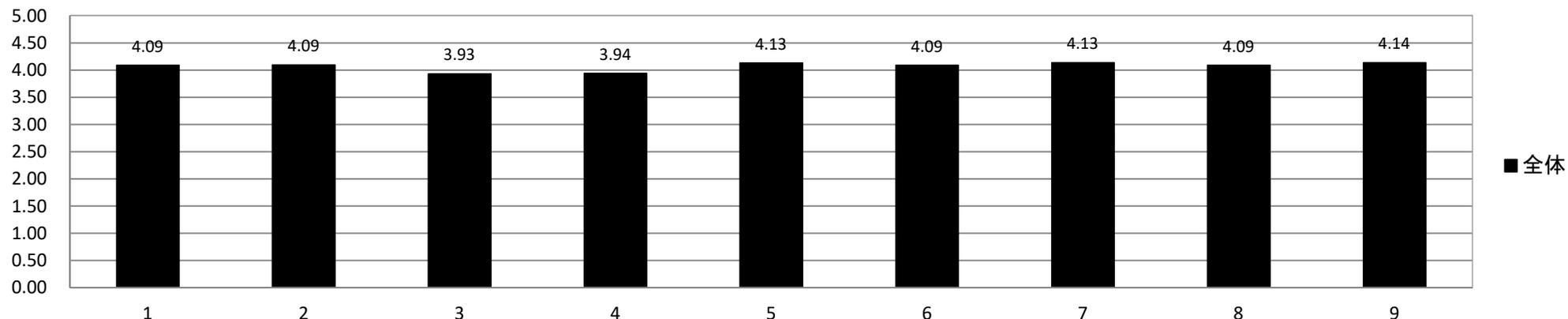
※5と4と回答した比率

学生肯定評価率	率
学修の成功を実感する学生の割合	62.3% ※1
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	20.5% ※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

全体の平均点



2021年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	講義
------	----

回答者数	12,421
------	--------

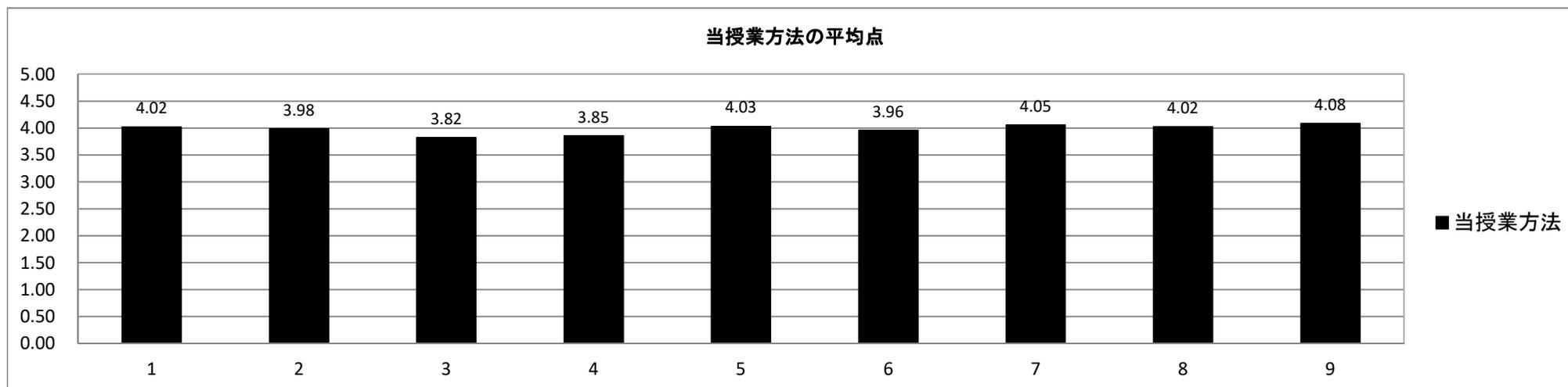
No	設問文	回答数と回答率(%)											平均点			※5と4と回答した比率							
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	3,647	29.4%	5,827	46.9%	2,574	20.7%	279	2.2%	72	0.6%	22	0.2%	12,421	0	4.02	-	-	-	76.3%	-	-	-
	2 授業内容の理解	3,674	29.6%	5,543	44.6%	2,684	21.6%	384	3.1%	109	0.9%	27	0.2%	12,421	0	3.98	-	-	-	74.2%	-	-	-
	3 授業時間外学習	3,493	28.1%	4,659	37.5%	3,204	25.8%	759	6.1%	235	1.9%	71	0.6%	12,421	0	3.82	-	-	-	65.6%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	2,931	23.6%	5,514	44.4%	3,368	27.1%	470	3.8%	105	0.8%	33	0.3%	12,421	0	3.85	-	-	-	68.0%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	4,611	37.1%	4,474	36.0%	2,669	21.5%	456	3.7%	159	1.3%	52	0.4%	12,421	0	4.03	-	-	-	73.1%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	4,127	33.2%	4,709	37.9%	2,801	22.6%	541	4.4%	180	1.4%	63	0.5%	12,421	0	3.96	-	-	-	71.1%	-	-	-
	7 教材の適切性	4,489	36.1%	4,852	39.1%	2,533	20.4%	381	3.1%	126	1.0%	40	0.3%	12,421	0	4.05	-	-	-	75.2%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	4,300	34.6%	4,921	39.6%	2,635	21.2%	381	3.1%	123	1.0%	61	0.5%	12,421	0	4.02	-	-	-	74.2%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	4,628	37.3%	4,913	39.6%	2,375	19.1%	336	2.7%	126	1.0%	43	0.3%	12,421	0	4.08	-	-	-	76.8%	-	-	-
5	15 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		58.1%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		17.8%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2021年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	演習
------	----

回答者数	7,944
------	-------

No	設問文	回答数と回答率(%)											平均点			※5と4と回答した比率							
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	2,959	37.2%	3,613	45.5%	1,207	15.2%	115	1.4%	37	0.5%	13	0.2%	7,944	0	4.17	-	-	-	82.7%	-	-	-
	2 授業内容の理解	3,281	41.3%	3,325	41.9%	1,151	14.5%	114	1.4%	60	0.8%	13	0.2%	7,944	0	4.21	-	-	-	83.2%	-	-	-
	3 授業時間外学習	3,055	38.5%	2,835	35.7%	1,519	19.1%	349	4.4%	123	1.5%	63	0.8%	7,944	0	4.03	-	-	-	74.1%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	2,464	31.0%	3,559	44.8%	1,624	20.4%	231	2.9%	50	0.6%	16	0.2%	7,944	0	4.02	-	-	-	75.8%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	3,899	49.1%	2,523	31.8%	1,283	16.2%	151	1.9%	62	0.8%	26	0.3%	7,944	0	4.25	-	-	-	80.8%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	3,666	46.1%	2,826	35.6%	1,159	14.6%	208	2.6%	60	0.8%	25	0.3%	7,944	0	4.23	-	-	-	81.7%	-	-	-
	7 教材の適切性	3,620	45.6%	2,892	36.4%	1,158	14.6%	176	2.2%	68	0.9%	30	0.4%	7,944	0	4.22	-	-	-	82.0%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	3,361	42.3%	3,008	37.9%	1,248	15.7%	215	2.7%	75	0.9%	37	0.5%	7,944	0	4.16	-	-	-	80.2%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	3,515	44.2%	2,919	36.7%	1,198	15.1%	212	2.7%	68	0.9%	32	0.4%	7,944	0	4.20	-	-	-	81.0%	-	-	-
5	15 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

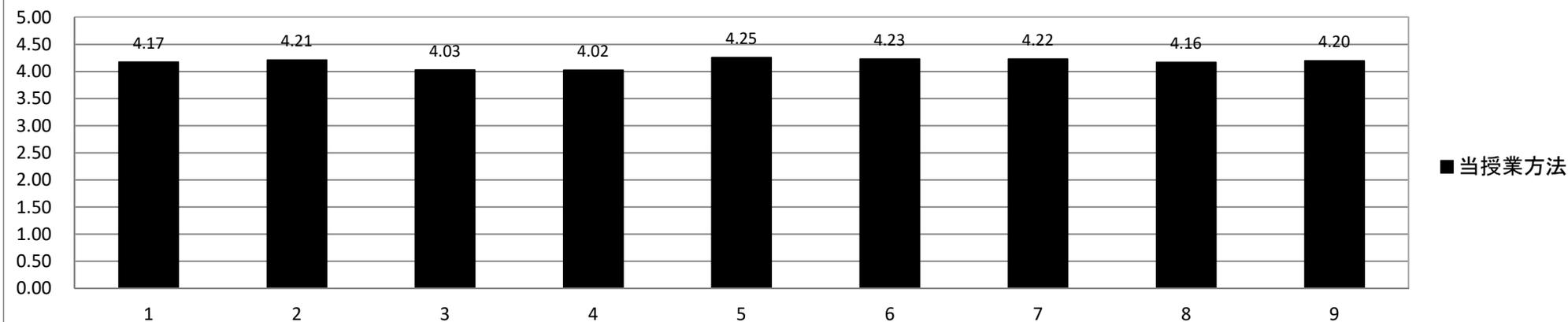
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		66.7%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		23.4%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2021年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	実験・実習
------	-------

回答者数	2,421
------	-------

No	設問文	回答数と回答率(%)												有効回答		平均点				肯定回答率			
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		授業 方法	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	872	36.0%	1,133	46.8%	378	15.6%	26	1.1%	8	0.3%	4	0.2%	2,421	0	4.17	-	-	-	82.8%	-	-	-
	2 授業内容の理解	994	41.1%	1,060	43.8%	336	13.9%	20	0.8%	8	0.3%	3	0.1%	2,421	0	4.24	-	-	-	84.8%	-	-	-
	3 授業時間外学習	1,026	42.4%	925	38.2%	374	15.4%	61	2.5%	24	1.0%	11	0.5%	2,421	0	4.17	-	-	-	80.6%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	798	33.0%	1,134	46.8%	440	18.2%	37	1.5%	7	0.3%	5	0.2%	2,421	0	4.10	-	-	-	79.8%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	1,163	48.0%	790	32.6%	393	16.2%	56	2.3%	13	0.5%	6	0.2%	2,421	0	4.25	-	-	-	80.7%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	1,172	48.4%	891	36.8%	288	11.9%	47	1.9%	12	0.5%	11	0.5%	2,421	0	4.29	-	-	-	85.2%	-	-	-
	7 教材の適切性	1,087	44.9%	923	38.1%	351	14.5%	38	1.6%	14	0.6%	8	0.3%	2,421	0	4.24	-	-	-	83.0%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	969	40.0%	972	40.1%	405	16.7%	52	2.1%	16	0.7%	7	0.3%	2,421	0	4.16	-	-	-	80.2%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	1,061	43.8%	911	37.6%	359	14.8%	66	2.7%	18	0.7%	6	0.2%	2,421	0	4.20	-	-	-	81.5%	-	-	-
5	15 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※5と4と回答した比率

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		69.4%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		24.7%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点

